

北の生物多様性を 守るために

研究者・拠点施設と市民活動は、どう連携できるか

2016.12.10(土) 10:00開会 / 17:30終了
9:30受付開始

会場/札幌エルプラザ2F 環境研究室 (札幌市北区北8条西3丁目)

参加費 きたネット会員・学生/1000円・一般/1500円

事前申込要 FAX・E-mail・電話等でお申込ください。申込〆切 12/6(火) (先着順・定員になり次第〆切)

profile プロフィール

齊藤 慶輔 氏 Keisuke Saito

日本獣医畜産大学野生動物学教室卒業。幼少時代をフランスの田園地帯で過ごし、野生動物と人間の共存を肌で感じた生活を送る。94年より環境省釧路湿原野生生物保護センターで野生動物専門の獣医師として活動開始。2005年同センターを拠点とする猛禽類医学研究所を設立、代表を務める。絶滅の危機に瀕した猛禽類の保護活動の一環として、傷病鳥の治療と野生復帰に努めるのに加え、保全医学の立場から調査研究を行う。近年、傷病・死亡原因を徹底的に究明し、その予防のための生息環境の改善を「環境治療」と命名し、活動の主軸としている。テレビ番組プロフェッショナル仕事の流儀、ソロモン流、ニュースゼロ、SWITCHインタビュー達人達などで活動が取り上げられ反響を呼んだ。著書「野生動物のお医者さん(講談社)」で第57回産経児童出版文化賞を受賞。世界野生動物獣医師協会(WAWV)理事、日本野生動物医学学会幹事、環境省希少野生動物種保存推進員。

山中 康裕 氏 Yasuhiro Yamanaka

北海道大学大学院環境科学院教授。1964年東京都新宿区生まれ。1991年東京大学助手、1998年北海道大学助教授を経て、2010年より現職。専門は地球温暖化および環境教育。「社会に何かを生み出す人材を育てよう」を理念として、実践環境科学コースを設立。多くの団体と連携して、学生とともに課題に取り組む。今、互いの人生を豊かにする人と知り合っていく楽しさを感じている。

大原 昌宏 氏 Masahiro Ohara

北海道大学総合博物館 教授、副館長。東京都出身。北海道大学大学院農学研究科博士課程を修了後、小樽市博物館学芸員、北大農学部助手を経て、2011年より現職。専門は昆虫分類学、甲虫類エンムシの分類のアジア唯一の研究者。日本甲虫学会英文誌編集長。日本昆虫学会和文誌編集長。北海道自然史研究会会長。CISEネットワーク代表。次世代の分類学関係者養成(パラタクソノミスト養成講座)を推進。趣味はガラス古瓶と笠集め。

町田 直子 氏 Naoko Machida

NPO法人ACTY 理事長(青森県八戸市)。京都女子大学短期大学部卒業。コロラド大学ジャーナリズム学部留学。JTBワールド西日本にて海外旅行マーケティングと商品開発。国際花と緑の博覧会海外報道課運営責任者、スリランカ大臣通訳、ポルトガル大使通訳。八戸にてまちづくり活動を始め、特定非営利活動法人ACTY設立。株式会社ACプロモートを立上げ、地域ブランディング戦略のもと観光開発を進める。現在は青森県教育委員会委員。

町田 善康 氏 Yoshiyasu Machida

美幌博物館学芸員。1980年生まれ。北海道大学水産科学研究科修士課程修了。幼少期から、川遊びが大好きで、毎日のように川に出かけた。大学でも、魚を研究するほどの魚好き。多くのことを教えてくれる川の流れを守るため、手作り魚道や特定外来種ウチダザリガニの駆除活動など、地域の方と共にふるさとの自然再生に取り組む。

山本 牧 氏 Maki Yamamoto

NPO法人もりねっと北海道 代表。1955年、福井市生まれ。74年、北海道大学入学。北大ヒグマ研究グループ入り。80年農学部林学科卒、81年大学院修士課程中退、北海道新聞社入社。社会部次長、富良野支局長、編集委員など。2010年退社。NPO法人もりねっと北海道理事を経て、現在代表。ヒグマの会副会長、北海道自然観察協議会理事、東海大非常勤講師。

環境中間支援会議・北海道

札幌圏で活動を行っている環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、認定NPO法人北海道市民環境ネットワークの4組織が連携して、北海道内におけるさまざまなセクターの環境活動を支援するために、より効率的に役立つ組織を目指し設立された組織。環境情報ポータルサイト「環境☆ナビ北海道」を運営するほか、道内の環境保全活動を推進するためのネットワーク形成や場づくりに関わる中間支援活動を行っている。

チセ CISEネットワーク

CISE (Community for Intermediation of Science Education) ネットは、札幌周辺地域の教育施設が連携し、地域住民への実物科学教育を進めるネットワークです。博物館、図書館、科学館、動物園、水族館、野外研究施設などの教育施設などが連携し、連携講座や標本・資料を活用した教材協働開発などを行い、その結果を地域の知財とし、地域の科学技術リテラシーを高めることを目指しています。こうした取り組みは、地域連携の新しいモデルとなっています。2016年10月、国連生物多様性の10年日本委員会によるUNDB-J認定連携事業(第9弾)として正式に認定されました。



※公共交通機関をご利用ください。

Timetable タイムテーブル

- 10:00~ 【開会式・ごあいさつ】
秋山 孝二 認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク 理事長
井下 龍司 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 理事
- 10:10~11:10 【基調講演】定員120名
野生の猛禽を診る・守る
~日本とサハラ、猛禽類保全活動の現場から
齊藤 慶輔氏 猛禽類医学研究所 代表、獣医師

環境中間支援会議・北海道 共催プログラム
研究者・拠点施設と市民活動のつながり
~コミュニケーターとしての市民参加

- 11:20~12:20 【話題提起】
■現場と協働した大学院での人事育成
山中 康裕 氏 北海道大学大学院環境科学院 教授
■北大博物館を拠点としたネットワークがめざすもの
大原 昌宏 氏 北大総合博物館 教授 副館長
- 12:20~13:20 【休憩~昼食】
CISEネットワーク トランクキットの展示をご覧ください。
- 13:20~15:20 【分科会】※分科会AorBのどちらかを選択

●分科会A 定員60名 環境中間支援会議・北海道 連続勉強会 地域を元気にする施設、 施設を元気にする地域 ~地域・市民・施設の共創~

- 現状と課題
事例1 美幌博物館「小さな町の大きな博物館」
美幌博物館学芸員 町田 善康 氏
事例2 「地域と環境情報施設の共創による
地域資源の活用」
~種差海岸インフォメーションセンター
NPO法人ACTY理事長 町田 直子 氏

- ディスカッション
「地域と環境学習施設の共創について考える」
コーディネーター 大原 昌宏 氏 (北海道大学総合博物館)
パネラー 町田 善康 氏、町田 直子 氏

開かれた施設(場)があることで、そこに人が集い、情報が集まります。そこから交流が生まれ、さまざまな活動や事業がはじまる...そんな地域を元気にする力が環境・自然系施設にはあるのではないのでしょうか。環境調査や展示物の作成などに市民の参画を得て大きく発展した美幌博物館と、地域の自然に加えて、地元飲食店や漁業者と連携し、幅広く地域振興に貢献している種差海岸インフォメーションセンター、2つの事例をお聞きし、市民と施設との共創の可能性について考えてみます。

●分科会B 定員60名 野生との距離感、共生のリテラシー コーディネーター 山本 牧 氏

- 現状と課題
■鉛弾規制から、次の一手を考える 齊藤 慶輔 氏
■対談 山本 牧 氏×齊藤 慶輔 氏
「ヒトは、共生を学ばなければいけない」

「自然が豊か」と言われる北海道ですが、道民はどれくらい自然界、特に野生動物について理解しつきあっているのでしょうか。身近な森を散歩しない、山菜は必要以上に採取する、ヒグマは怖いが生態は知らない...。なんだか心配です。ヒグマに詳しい山本牧氏、猛禽類の救護や鉛弾問題に取り組む齊藤慶輔氏のお2人が、「野生との距離感」をキーワードに、餌付けや放流、駆除と保護、鉛弾規制などを通じて、「市民と自然の将来像」を語り合います。

15:35~17:10 学び・伝え、拡げるために 分野別 情報交換会

- 【進行協力】
高木 晴光 氏 (黒松内ふなの森自然学校 運営委員長)
能條 歩 氏 (北海道教育大学 岩見沢校 教授)
内山 到 氏 (公益財団法人北海道環境財団・きたネット理事) 他
- 【活動紹介】
CISEネットワーク、学芸員ネットワーク、きたネット 他

17:10~17:30 【まとめ・閉会】 18:30~ 交流会 (札幌駅周辺で開催・実費)

参加申込書 FAX. 011-215-0149

FAXまたは郵送、E-mailでお申込みください(12/6(火) 締切)

お名前(フリガナ)	男・女	参加プログラム 希望のプログラムに ✓を付けて下さい。 ※申込み多数の場合先着順	午前	<input type="checkbox"/> 基調講演/話題提起(定員120名)
ご住所 〒	所属団体・企業・職業・学校		午後	<input type="checkbox"/> 分科会 (AまたはBをお選び下さい) <input type="checkbox"/> A(定員60名) <input type="checkbox"/> B(定員60名) <input type="checkbox"/> 分野別 情報交換会 <input type="checkbox"/> 18:30~交流会(会場未定・実費)
Tel				
Fax				
E-mail				

We love, We Save... きたネットとは

地球の森林の1/700が北海道にあります。多様な野生生物や植物がこの豊かな自然の中でいのちを育んでいます。「きたネット」は、この北海道の環境を守り、次の世代にひきついでいくために活動する、市民団体62団体(2016.10現在)と、活動に賛同する個人や企業が所属する、環境活動のネットワークです。



認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8番地 愛生館ビル5階
Tel. 011-215-0148 Fax. 011-215-0149 E-mail. office@kitanet.org
きたネットWeb http://kitanet.org きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org



本フォーラムは一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成をいただき開催いたします。



http://kitanetv.blogspot.jp/
きたネットでは行事などの動画をインターネットで発信しています。本フォーラムの一部も毎日録画配信を行う予定です。